

土佐山田商店街の飲食店数変化に関する研究

1140420 重栖 美香

高知工科大学マネジメント学部

1. はじめに

1.1 概要

第二次大戦後、過疎による地域の衰退が起き、各地で地域振興の動きが見られるようになったが、高知県は人口減少率が全国 3 位（平成 22 年国勢調査）と、効果は得られておらず、高知県香美市土佐山田町中心商店街においてもシャッターの閉まったままの店舗が数多く存在する。衰退の原因を明らかにしなければ、地域振興の取組の効果は低いと考えられる。そこで、本研究では、ライフスタイルとの関わりが強く、土佐山田商店街においても数の多い飲食店に着目し、高知県香美市土佐山田町中心商店街における飲食店数の空間分布変化と周辺住民のライフスタイルについて調査し、ライフスタイルと商店街の飲食店数減少との関係の考察を行った。その結果、自動車の普及による商圏の広がり、人口減少による後継者不足、店舗間の活性化への意識の差が飲食店減少の要因となっている可能性が示された。

1.2 背景

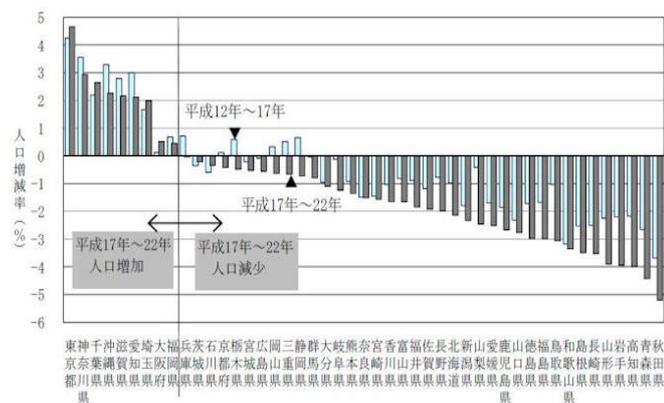


図 1.2-1 都道府県別人口増減率（平成 12～17 年、平成 17～22 年）（出典：統計局 平成 22 年国勢調査結果公表（1）—人口速報集計—）

第二次大戦後、農業の衰退や人口流出による過疎が起き、各地で産業振興・地域振興の動きがみられるようになった。そして高知県でも、土佐弁で「宴会」を意味し、高知市の中心街を宴会場にみたてて、酒・グルメ・アート・よさこいなどの様々なイベントが同時開催される「とさのおきゃく」や、全国の高校生を対象とした漫画

の大会で毎年各地から約 300 校が参加する全国高等学校漫画選手権大会の通称「まんが甲子園」、そして、学生が商店街の清掃や観光客を案内する取り組みを行う「エスコーターズ」などの他にも数多くの地域振興の取り組みが行われてきた。

しかし、平成 22 年の高知の人口減少率は-4.0%（全国 3 位）と人口減少による地域の衰退は続いており、地域振興による大きな効果は出ていないと考えられる。

一方、高知県香美市土佐山田町は、高知市の北東約 20km に位置し、人口約 2 万人の地域である。香美市は高知市の衛星都市として位置づけられるが、香美市を中心とする香美商圏に属しており、大きく言えば高知商圏の一部をなしている。

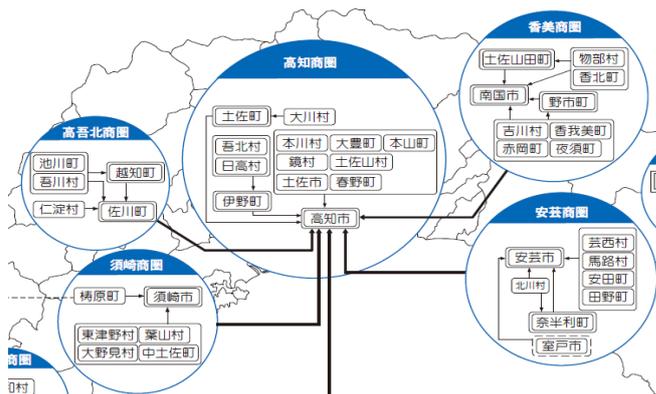


図 1.2-2 高知県の商圏分布

しかし、近年の高知市集中化の影響により、高知各地にシャッター街が増え、香美市土佐山田町の中心商店街でも、昼夜ともシャッターの閉まったままの店舗が数多く存在している。

飲食店は、高知県香美市土佐山田町中心商店街において最も店舗数が多く、地域住民のライフスタイルとの関わりが強いと考えられる。よって、飲食店数の変化と学生・お年寄り・家族の飲食に関するライフスタイルの違いとの関係を明らかにすることは、土佐山田町中心商店街の飲食店、そして土佐山田町中心商店街全体の発展に貢献できる可能性があるという点で意義を有している。

1.3 目的

本研究は、商店街の飲食店の空間的な分布変化と、学生・お年寄り・家族の飲食に関するライフスタイルを明らかにし、ライフスタ

イルと商店街の飲食店数減少との関係を考察することを目的とする。

1.4 研究手順

はじめに、国勢調査や行政区別人口集計表などの統計情報の収集や、電話帳・住宅地図の過去との比較により、高知県香美市土佐山田町の衰退の現状と中心商店街の飲食店の分布変化を把握する。次に、香美市役所産業振興課商工観光班・香美市商工会・土佐山田商店街の飲食店を対象としたヒアリング調査を行い、飲食店の客層の変化を調査する。そして、学生・お年寄り・家族を対象としたアンケートを実施し、飲食に関するライフスタイルの違いを考察する。最後に、統計情報、ヒアリング結果、アンケート結果から、土佐山田町中心商店街における飲食店の減少とライフスタイルとの関係を明らかにする。

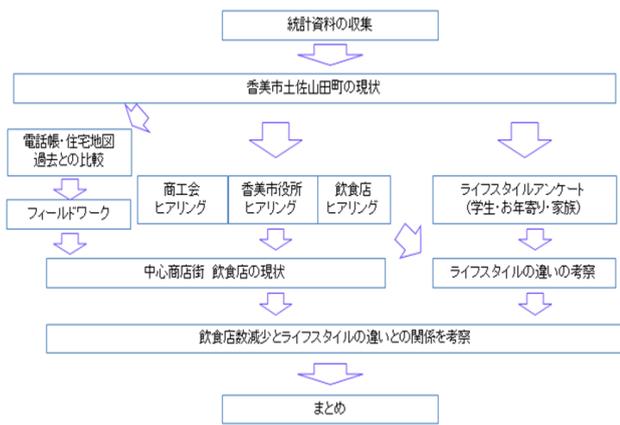


図 1.4-1 研究手順のフロー

2. 香美市の現状

2.1 香美市の産業構造

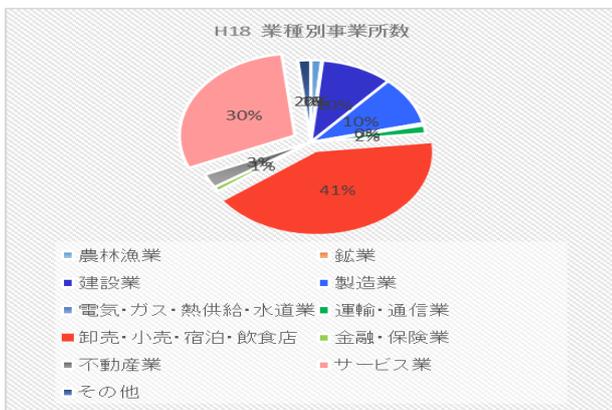


図 2.1-1 香美市産業別事業所数 (資料：事業所・企業統計調査)



図 2.1-2 香美市事業所数推移 (資料：事業所・企業統計調査)

事業所数は業種別に見ると、「卸売・小売業・宿泊・飲食店」の割合が 41%と最も高く、次いでサービス業の割合が高く 30%となっている。(平成 18 年現在) 過去 10 年を見てみると、平成 8 年から平成 16 年まで事業所数の減少が続いているが、平成 16 年から平成 18 年にかけて増加が見られた。

2.2 土佐山田町の人口推移

土佐山田町の人口は昭和 60 年から減少しており、平成 7 年から 12 年にかけて増加が見られるものの、その後も人口減少が続いている。また、平成 7 年から 12 年にかけて増加したのは 15~24 歳男性であり、これは高知工科大学設立に影響を受けていると考えられる。平成 19 年以降高知工科大学の県外入学者数は増加しているにも関わらず、土佐山田町の人口減少は続いている。

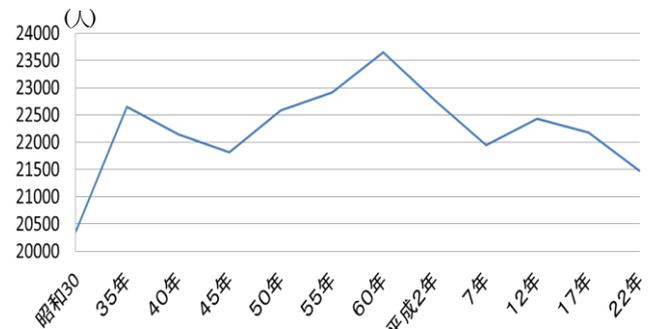


図 2.2-1 土佐山田町人口推移 (資料：国勢調査)

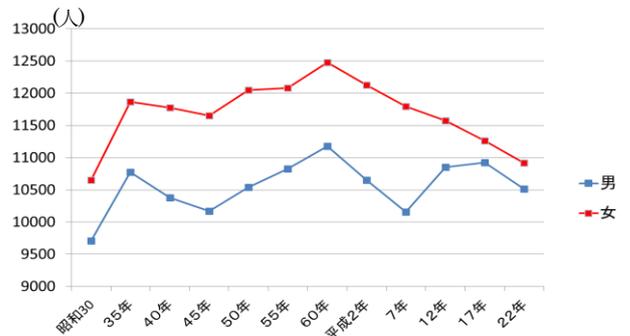


図 2.2-2 土佐山田町男女別人口推移 (資料：国勢調査)

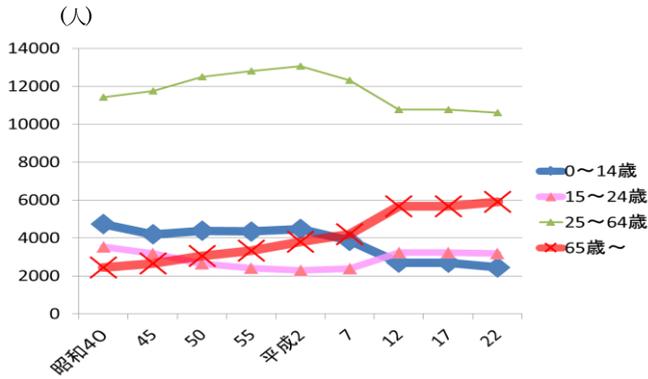


図 2.2-3 土佐山田町年齢別人口推移 (資料：国勢調査)

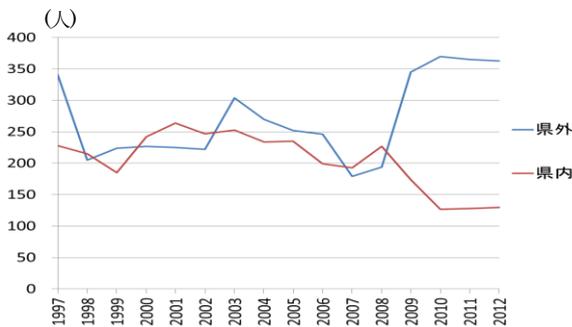


図 2.2-4 高知工科大学入学者数推移 (資料：高知工科大学)

3. 土佐山田町中心商店街の現状と課題

3.1 土佐山田中心部の人口推移

土佐山田中心商店街が立地している東本町及び西本町の昭和 61 年から平成 22 年の丁目ごとの人口推移を調査し、昭和 61 年と平成 22 年の丁目ごとの人口の比較を行った。

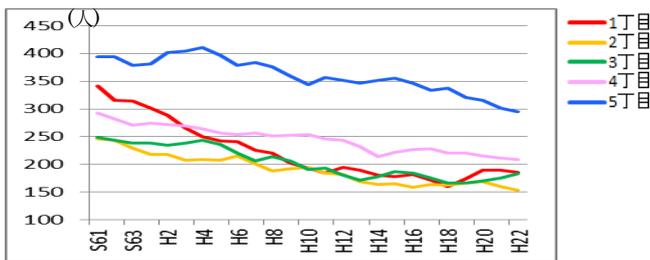


図 3.1-1 土佐山田町東本町人口推移

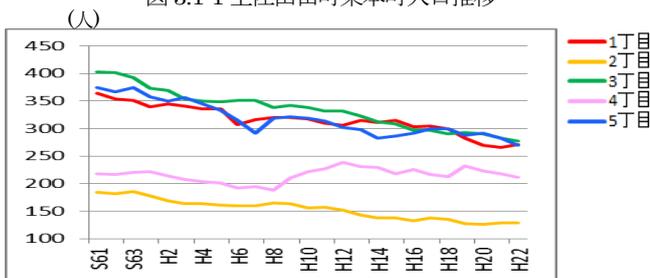


図 3.1-2 土佐山田町東本町人口推移

全体的に人口減少が続いているが、東本町 4 丁目、東本町 5 丁目、西本町 4 丁目では、昭和 61 年よりも人口が増えた年もあるが、昭和 61 年と平成 22 年を比較すると、東本町と西本町のどちらも、どの丁目においても人口は減少していることがわかった。

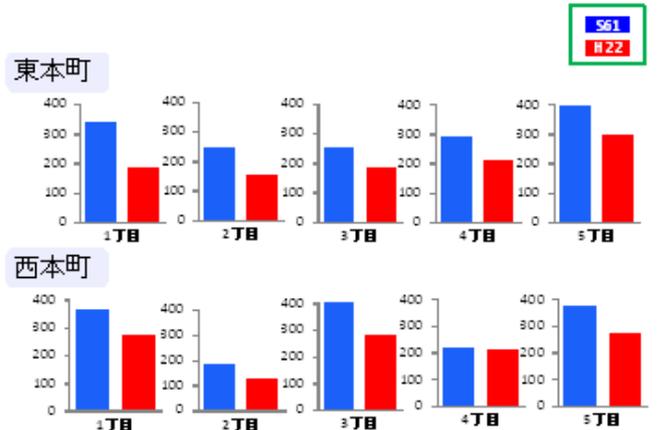


図 3.1-3 昭和 61 年と平成 22 年丁目単位人口比較 (資料：香美市役所市民保険課)

3.2 土佐山田町中心商店街の飲食店数推移調査

3.2.1 調査概要

*調査目的

職業別電話帳と住宅地図の過去との比較を行うことによって、土佐山田商店街の飲食店数の変化及び空間的な分布変化を把握すること。

*調査方法

初めに、昭和 49 年の高知県職業別電話帳と、昭和 60 年と平成 22 年の高知県版タウンページに掲載されている土佐山田町東本町と土佐山田町西本町に立地している飲食店を丁目単位で抽出する。

次に、昭和 49 年、昭和 60 年、平成 23 年の香美市住宅地図に掲載されている土佐山田町東本町と土佐山田町西本町に立地している飲食店を抽出し、電話帳に掲載されていないものもあれば店舗数に含める。また、土佐山田町東本町/西本町でフィールドワークを行い、最新の電話帳・住宅地図に掲載されている店舗が現在存在しているのかを確認し、最新のデータとする。

最後に、丁目ごとに店舗数の変化を年ごと・丁目ごとに表化し、空間的な分布変化を追う。さらに、東本町と西本町の南に位置している宝町と旭町においても同様の調査を行った。

3.2.2 調査結果

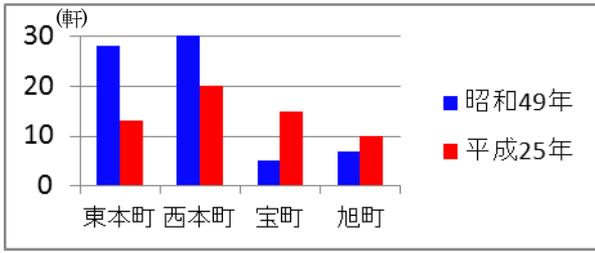


図 3.2-2-1 昭和 49 年平成 25 年飲食店数比較 (軒)



図 3.2-2-2 東本町/西本町飲食店数空間分布変化 (軒)



図 3.2-2-3 東本町/西本町飲食店数空間分布変化 (軒)

昭和 49 年では、東本町/西本町の店舗数は約 41%が 1 丁目に集中しており、昭和 60 年では約 56%、平成 25 年では約 63%とその傾向は強くなっている。また、宝町/旭町においても、1 丁目の店舗数の割合は昭和 49 年では約 33%、昭和 60 年では 44%、平成 25 年では 60%と同じように 1 丁目に店舗数が集中する傾向が見られた。このことから、土佐山田駅から南に延びる県道 236 号線と県道 234 号線に集中していく傾向があると考えられる。商店街の店舗数減少に伴って、土佐山田駅の利用者が商店街の立地する旧道ではなく国道 195 号線を利用することが増え、それによってより店舗数が県道 236 号線と県道 234 号線に集中した可能性が考えられる。

昭和 49 年と平成 25 年の飲食店数を比較すると、東本町/西本町では 59 件から 33 件へと全体的な飲食店数の減少が見られたが、西本町 1 丁目では 12 件から 18 件へと 5 件増加しており、宝町/旭町においては 12 件から 25 件へと全体的な増加が見られた。

宝町/旭町における飲食店数の増加は、昭和 40 年代に整備された国道 195 号線の影響が考えられる。国道 195 号線が整備される以前は、現在の旧道である中心商店街のある通りが主要な道路であった。しかし、国道 195 号線が整備されて以降、主要な道路は国道 195 号線に移動し、旭町/宝町にも建物が増加したと考えられる。

丁目単位の人口は、どの丁目においても減少しているが、飲食店数の増加した丁目も存在するため、人口の減少と飲食店数の減少に大きな関係があるとは考えにくい。



図 3.2-2-4 昭和 51 年土佐山田町中心部空中写真

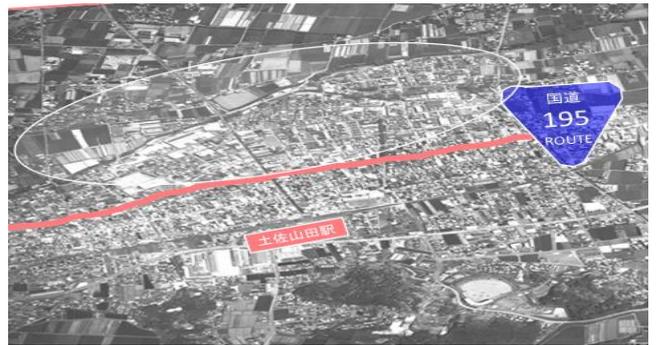


図 3.2-2-5 平成 22 年土佐山田町中心部空中写真

4. 飲食店数減少とライフスタイルの関わり

4.1 食料支出における外食支出額の割合

食料支出のうち外食支出額が増加傾向にあるにも関わらず、土佐山田中心商店街の飲食店数は減少している。このことから、外食支出額の変化は土佐山田商店街の飲食店数の減少要因として大きな影響を与えているとは考えられない。

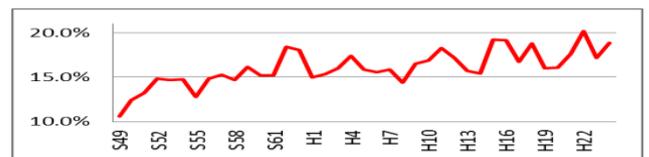


図 4.1-1 高知市の 1 世帯当たり年平均 1 か月の食料支出額における外食支出額の割合 (資料：家計調査年報)

4.2 ライフスタイル調査

4.2.1 アンケート調査概要

*調査目的

学生/お年寄り/家族の飲食に関するライフスタイルを調査し比較することによって、ライフスタイルの違いを明らかにするとともに、各対象の土佐山田町内の飲食店利用頻度を把握することを目的とする。

*調査対象

1. 高知工科大学学生 18名
2. 土佐山田町在住の65歳以上 12名
3. 土佐山田町で勤務している家族と同居している方 7名

*アンケート内容

- ・昼食を食べる場所
- ・夕食を食べる場所
- ・土佐山田町内の飲食店の利用頻度
- ・友人と集まる頻度
- ・休日にどこで過ごすか
- ・昼食を誰と食べるか
- ・夕食を誰と食べるか
- ・交流の場として利用する場所
- ・休日に何をして過ごすか

4.2.2 アンケート調査結果

アンケート調査結果をまとめたものを以下に示す。

・土佐山田町内の飲食店利用頻度について「毎日」「週5回程度」「週3回程度」「週1回程度」「月1回程度」「利用しない」「利用したことがない」「その他」の選択肢から1つを選択してもらい、「利用しない」または「利用したことがない」を選択した場合には、その理由を尋ねた。

「利用しない」または「利用したことがない」と回答した人の割合は、高知工科大学生では87%、土佐山田町在住の65歳以上では42%、家族と同居している方では50%であり、どの対象においても他の選択肢と比べて最も高い割合となった。この結果から、どの対象においても土佐山田町内の飲食店の利用頻度がとても低いことがわかる。土佐山田町内の飲食店を利用しない理由についての項目では、どの対象においても、「土佐山田町内に利用したい飲食店が無い」「気軽にに入れる飲食店が無い」といった回答が多く、高知工科大学生においては、「価格が高い」「節約のため」という回答も多数得られた。そのため、1度利用した店舗の印象が土佐山田町内全体の飲食

店のイメージとなっている可能性が考えられ、飲食店の立地している場所、各飲食店のコンセプトやメニューや価格などの認知度が低く土佐山田町内の飲食店を利用する機会が減少している可能性が考えられる。

・休日に昼食・夕食を食べる場所について、「自宅」「勤務先」「香美市（土佐山田町外）の飲食店」「香美市（土佐山田町内）の飲食店」「高知市の飲食店」「南国市の飲食店」「その他」の選択肢から1つを選択してもらい、その理由を尋ねた。

休日に昼食を食べる場所は、高知工科大学生の約77%、土佐山田町在住65歳以上では約91%、家族と同居している方では約71%が「自宅」と回答した。また、休日に夕食を食べる場所の項目では、高知工科大学生の約72%、土佐山田町在住65歳以上では約83%、家族と同居している方では約100%が「自宅」と回答し、どの対象においても、昼食・夕食を食べる場所は、昼食・夕食ともに「自宅」と回答した人の割合が圧倒的多数であった。食事を自宅でとる理由への回答では、高知工科大学生では「節約のため」、土佐山田町在住65歳以上や家族では「家族と食事をとるため」「ゆっくり食事をとるため」といった回答が得られた。この結果から、節約や家族との時間を大切にする為外食の頻度自体が減少している可能性が考えられる。また、土佐山田町内に低価格で家族でも気軽に利用しやすい飲食店が存在していない可能性や、存在していても広く認知されていない可能性が考えられる。

・交流の場として利用する場所について、「自宅・友人宅」「学校・勤務先」「土佐山田町内の飲食店」「土佐山田町外の飲食店」「土佐山田町外の飲食店」「その他」の選択肢から1つを選択してもらい、その理由を尋ねた。

高知工科大学生では約33%、土佐山田町在住65歳以上では50%、家族と同居している方では40%が飲食店を利用していることが分かった。また、高知工科大学生では、「学校・勤務先」の回答も37%となった。土佐山田町在住65歳以上や家族では、土佐山田町内に限らず「飲食店」を利用する割合は低くはないが、土佐山田町内の飲食店を利用する頻度は低いことがわかる。このことから、飲食店を利用する際に土佐山田町内の飲食店を選択することが少ないと考えられる。高知市や南国市に存在する知名度の高い店舗や、低価格の店舗、家族での利用に配慮を行っている店舗などの影響が考えら

れる。

高知工科大学					
住所		休日に昼食を食べる場所		1か月に同世代で集まる頻度	
土佐山田町	12名	自宅	14名	5回以上	4名
西本町	1名	学校	2名	3~4回程度	5名
東本町	1名	自宅・学校	1名	1~2回程度	7名
宝町	5名	高知市の飲食店	1名	ほとんど集まらない	2名
旭町	1名				
その他(土佐山田)	4名	休日の昼食は誰と食べるか		交流の場として使う場所	
土佐山田町外	6名	1人	10名	自宅・友人宅	5名
誰と一緒に住んでいるか		家族と	2名	学校・職場	7名
独身	12名	友達と	4名	土佐山田町外の飲食店	3名
家族	6名			自宅・友人宅/土佐山田町外の飲食店	3名
勤務地・通学地		休日に夕食を食べる場所			
土佐山田町	17名	自宅	13名	土佐山田町内の飲食店 利用頻度	
高知市	1名	学校	2名	週1回程度	2名
		自宅・勤務先	1名	利用しない	13名
		香南市の飲食店	1名	利用したことがない	1名
		南国市の飲食店	1名		
		休日の夕食は誰と食べるか			
		1人	8名		
		家族と	6名		
		友達と	3名		
		一人・友達と	1名		

図 4.2-1 アンケート調査結果 (高知工科大学学生 18 名)

土佐山田在住65歳以上					
住所		平日に昼食を食べる場所		平日に夕食を食べる場所	
東本町	4名	自宅	10名	自宅	11名
宝町	5名	土佐山田町内の飲食店	1名	土佐山田町内の飲食店	1名
その他(土佐山田)	3名	香段は自宅		香南市の飲食店	1名
		時々南国市・高知市	1名	南国市の飲食店	1名
誰と一緒に住んでいるか		平日の夕食は誰と食べるか			
独身	2名	1人	3名	家族と	9名
家族	10名	家族と	8名		
		休日に夕食を食べる場所		交流の場として使う場所	
		自宅	10名	自宅・友人宅	2名
		土佐山田町内の飲食店	11名	土佐山田町内の飲食店	2名
		土佐山田町内の飲食店	1名	土佐山田町外の飲食店	1名
		自宅・南国市の飲食店	1名	自宅・友人宅/町内の飲食店	1名
		休日の昼食は誰と食べるか		土佐山田町内/外の飲食店	2名
		1人	3名	その他	4名
		家族と	9名	(ゲートボール・カラオケなど)	
		休日の夕食は誰と食べるか		土佐山田町内の飲食店 利用頻度	
		1人	1名	毎日	1名
		家族と	10名	週1回程度	1名
				週3回程度	1名
				月1回程度	2名
				2か月に1回	1名
				1年に1回	1名
				利用しない	5名

図 4.2-2 アンケート調査結果 (土佐山田町在住 65 歳以上 12 名)

家族(勤務地:土佐山田町)					
住所		平日に昼食を食べる場所		平日に夕食を食べる場所	
その他(土佐山田)	5名	自宅	4名	自宅	7名
土佐山田町外	2名	土佐山田町内の飲食店	1名	土佐山田町内の飲食店	1名
		香南市の飲食店	1名	土佐山田町外の飲食店	1名
		勤務地(土佐山田町)	1名	その他(イオン)	1名
				無回答	2名
		平日の昼食は誰と食べるか		休日に夕食を食べる場所	
		1人	2名	自宅	7名
		家族と	4名	土佐山田町内の飲食店 利用頻度	
		同僚と	1名	週3回程度	1名
		休日に夕食を食べる場所		月1回程度	2名
		自宅	5名	利用しない	2名
		土佐山田町内の飲食店	2名	利用したことがない	1名
		1か月に同世代で集まる頻度		飲食店を利用する理由	
		3~4回程度	1名	利用しない	1名
		1~2回程度	2名	友人・家族との交流	3名
		ほとんど集まらない	4名	家の近くにあるため	2名
		休日の昼食は誰と食べるか		外出先の近くにあるため	2名
		1人	2名		
		家族と	5名		

図 4.2-3 アンケート調査結果(土佐山田町勤務で家族と同居7名)

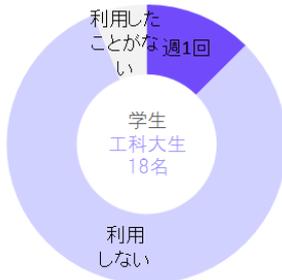


図 4.2-4 対象別土佐山田町内の飲食店利用頻度 (高知工科大学学生 18 名)

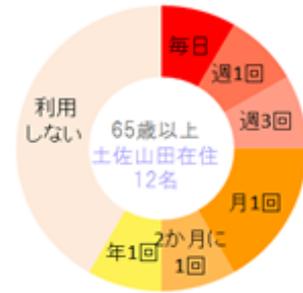


図 4.2-5 対象別土佐山田町内の飲食店利用頻度 (土佐山田在住 65 歳以上 12 名)



図 4.2-6 対象別土佐山田町内の飲食店利用頻度 (土佐山田町勤務の家族と同居している 7 名)

4.3 ヒアリング調査概要

*調査目的

土佐山田中心商店街及び土佐山田中心商店街における飲食店の現状と過去からの変化を把握し、土佐山田中心商店街の飲食店数減少理由に関する手がかりを得ること。

*調査対象

1. 香美市役所産業振興課商工観光班
2. 香美市商工会
3. 居酒屋たむら

*ヒアリング内容

- ・土佐山田中心商店街の現状
- ・土佐山田中心商店街の過去からの変遷
- ・土佐山田中心商店街の飲食店数減少理由について
- ・活気の喪失への対策・取組について

4.4 ヒアリング調査結果

4.4.1 商店街における活性化の取組

香美市商工会による取組

・香美 ing 商品券

香美市内の加盟店においてのみ使用が可能な 10%のプレミアム付き商品券の発行を商工会で行っている。加盟店全店で使用可能な券が 15 枚、スーパーなどの大型店舗では使用不可の券が 7 枚と、利用店舗に偏りが出ない為の工夫がされている。1セット1万円(1人3セットまで)を 2000 セット販売した。土佐山田町全体では 123 店舗、東本町では 19 店舗、西本町では 37 店舗が加盟店として参加している。(平成 25 年)

香美市による取組

・商工会プレミアム付商品券発行事業

商工会の発行するプレミアム付き商品券「香美 ing 商品券」に対する補助金の交付 (200 万円)。

・中心商店街拠点整備及び空き店舗対策事業

ゑびす街協同組合による、中心商店街に地域交流拠点を整備することにより空き店舗対策の推進と中心市街地の活性化による交流人口の増大と産業振興を目指し、空き店舗を利用したアンテナショップの運営を行う事業への補助金の交付 (126 万 3 千円)。尚、この事業には県からも 378 万 5 千円の補助金が交付された。

・香美市情報発信交流施設管理運営委託事業

JR 土佐山田駅構内の「香美市いんふおめーしょん」を指定管理し、商店街及び香美市観光の案内業務を行う。

・商工会商工業振興対策 (刃物まつり)

香美市商工業の実施する商工業の振興を目的とした施策である刃物まつりに対する補助金の交付 (50 万円)。伝統工芸品「土佐打刃物」は香美市固有の産業として継承されているが、需要減少、後継者不足、PR 不足が現状課題である。

商店街の店舗の自主的な取組

・電子マネーを利用可能にする

・宴会場の設置 ・オリジナルグッズ (T シャツ) 作成

・ゑびす街協同組合による取組

空き店舗を利用して、駄菓子屋や映画館など昔懐かしの店を再現するイベントである「ゑびす昭和横丁」の開催、ふらっと中町の運営

4.4.2 ヒアリング結果まとめ

ヒアリング調査結果をまとめたものを以下に示す。

・商店街利用客は主に土佐山田町在住の年配の常連客である。

・以前は JR (国鉄) やバスなどの公共交通機関を利用する人が多く、商店街内を徒歩で移動する人々が多く見られたが、自動車を利用する人の増加、バス会社の撤退に伴い商店街内の徒歩の人通りが減少した。

・商店街の店舗減少の大きな要因として、通信販売の普及や商圏の広がりがどの対象にも共通して挙げられた。

・店舗の減少に伴い、商店街利用者の中でも特定の店舗しか訪れない人が増加したことにより、当初の目的以外の近くの店舗も訪れるといった商店街内の店舗同士の相乗効果が薄れ、更なる店舗の減少へと繋がっている。

・後継者不足により、その「代」で店を閉じるケースが多い。

・商店街活性化の取り組みは、市や商工会によるプレミアム付き商品券の発行や空き店舗を活用した商店街中心拠点の設置が実施されており、各店舗でも電子マネー利用可能化や宴会場の設置などの自主的な取組も見られるが、積極的な店舗ばかりではない。

5. 飲食店数変化理由の考察

5.1 飲食店数減少と人口推移との関わり

本研究では、高知県香美市土佐山田町中心部を対象として、飲食店数の空間的な分布変化について研究を進めてきた。

土佐山田町の人口は昭和 60 年頃から減少が起き、平成 7 年から 12 年にかけて高知工科大学設立の影響によるものと考えられる人口増加が見られるものの、その後も人口減少が続いている。中心部の丁目単位の人口も昭和 61 年と平成 25 年を比較したが、どの丁目においても減少が見られた。しかし、飲食店数の増えている丁目も存在するため、丁目単位の人口減少は飲食店数減少の大きな要因となるとは考えられない。

5.2 飲食店数減少とライフスタイルの関わり

家計調査のデータから、高知市では食料支出における外食支出の割合が高くなっていることが明らかになった。しかし、アンケート調査からは、土佐山田町内の飲食店を利用する人の割合が低く、利用しない理由として「利用したい店舗が無い」「気軽に入れる店舗が無い」といったものが挙げられた。また、ヒアリング結果より、

自動車の普及による商圈の広がりが商店街の店舗数減少に大きな影響を与えた要因の一つと考えられる。これらの結果から、自動車の普及に伴い、以前は公共交通機関や徒歩によって土佐山田町中心商店街を訪れていた人が減少し、香美市内だけでなく高知市・南国市へ行く機会が増えたことにより、より利用する飲食店の選択範囲が広がったと考えられる。それによって、競合店が増え、飲食店数の減少に繋がった可能性が考えられる。また、アンケート・ヒアリング結果より、土佐山田町周辺住民は土佐山田町内の飲食店の立地や価格などの認知度が低く、他の地域に存在する知名度の高い店舗や低価格の店舗、家族での利用に配慮を行っている店舗などを利用する機会が増加した為、土佐山田町内の飲食店数減少が進行したと考えられる。

また、「代」が受け継がれることなく店を閉じるケースでは、少子化による後継者不足による影響が考えられる。香美市や香美市商工会による後継者不足対策は行われておらず、空き店舗の活用事業のみしか実施されていない。その為、土佐山田町中心商店街の後継者不足は進行を続け、後継者が充足していないと考えられる。

そして、香美市や商工会による商店街活性化の取組や自主的に取組を行っている店舗があるにもかかわらず、店舗数の減少が進行している点については、活性化の取組には商店街内の全ての店舗が参加をしているわけでは無いため、各店舗の活性化への意識に温度差が存在しており、活性化の効果をj得ている店舗が一部に限られている可能性が考えられる。

5.3 商店街活性化への提案

以下の対策を挙げることで、土佐山田町中心商店街の活性化に繋がりたいと考える。

- ・土佐山田中心商店街付近の商店街利用客専用の駐車場の整備
商店街の利用客のための駐車場を整備し、主な移動手段として自動車を利用している人も気軽に商店街を訪れることができるようにする。
- ・店舗マップの制作

土佐山田中心商店街内のどの位置にどのような店舗が位置しているのか、その店舗のメニューや価格、コンセプト等をわかりやすくまとめたものを作成し、土佐山田周辺住民に利用してもらう。それによって、土佐山田中心商店街内にどのような店舗が存在している

のかの認知度を高め、利用客の増加を目指す。

- ・土佐山田中心商店街内の全ての店舗参加型の集会の実施
商工会や、あびす街協同組合などに参加する一部の店舗だけでなく、土佐山田町中心商店街の全ての店舗が参加する集会を開き、意見交換を行うことで、現状を改めて認識・理解し、各店舗の商店街の振興への意識の差を無くすとともに、現在実施されている取組や今後の展開について検討し、問題点を抽出する。また、その集会で議論された内容を商工会や香美市と共有し、商店街振興の取組の効果が最大となるよう、地域全体で商店街振興に取り組む姿勢を構築する。

6. 今後の課題

- ・モータリゼーションと土佐山田中心商店街の衰退との関係の調査
土佐山田町における自動車の普及による商圈の広がりと、土佐山田中心商店街の衰退との関係を調査する必要がある。
- ・土佐山田町内の飲食店の認知度の調査
土佐山田町周辺住民の土佐山田町内の飲食店の立地・価格・メニュー・コンセプト等の認知度の調査や、飲食店を選択する基準（ニーズ）の調査を行う必要がある。
- ・商店街の後継者不足への対策の提案
後継者不足により、その「代」で店を閉じるケースが多いため、後継者不足を克服する為にとどのような対策が有効であるのかを考察する必要がある。
- ・商店街活性化成功事例と土佐山田町中心商店街の現状との比較
既存の商店街活性化成功事例を基に、成功事例の対象地域と土佐山田町中心商店街との比較を行い、土佐山田中心商店街での類似案の実施が有効となるかの検討を行う必要がある。

7. 引用文献

- [1] 総務省統計局 平成 22 年国勢調査結果公表 (1) 一人口速報集計― 都道府県別人口増減率 (平成 12~17 年、平成 17~22 年)
- [2] 香美市役所産業振興課商工観光班「平成 25 年度商工業振興施策について」